

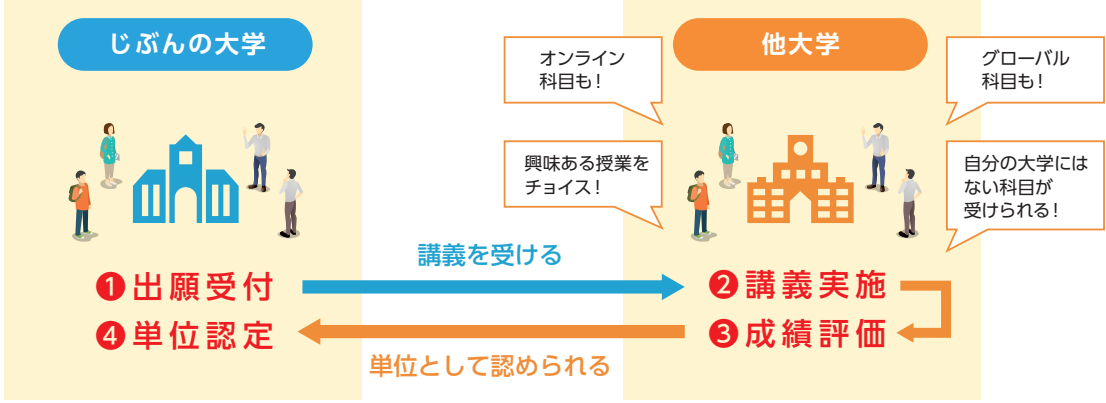
単位互換制度について

他大学の科目を受講して単位が取れます

単位互換制度とは、他の大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。大学コンソーシアム京都では、前身の「京都・大学センター」が発足した1994年から本制度を運用しており、現在ではおよそ45校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が履修しています。特色ある科目としては、PBL（※）の学修を取り入れた「京都世界遺産PBL 科目」が開設されています。2020年度からは「京都ミュージアムPBL 科目」を新設し、京都ならではの科目を提供しています。2021年度からは、オンラインのみで受講できる科目も多数提供されています。

※受講料は無料ですが、受講科目によっては所定の実習費や材料費等が必要となる場合があります。

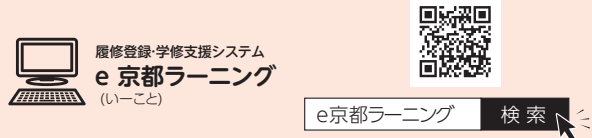
※PBL (Project Based Learning) とは、課題発見・解決型の能動的学修のことです。



●単位互換科目のシラバスと出願について

単位互換科目のシラバスは、単位互換の専用システム「e京都（いーこと）ラーニング」から確認できます。テーマ、授業形式、開講曜日・講時、開講大学などから検索ができます。また、出願についてもe京都（いーこと）ラーニングから行ってください。

※立命館大学、龍谷大学の学生は、各大学のシステムより出願手続を行って下さい。



「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ

キョー・デント

KYO-DENT

京都での学生生活で、自分を変えてみたい、新しい何かを見たい。自分の知らない世界を知りたい…。KYO-DENTは、そんなあなたのため、京都の学生のためのアプリです。

みんなの掲示板機能

京都の大学生同士で情報交換しよう！

※在籍大学等によっては、一部利用いただけません。

京のコト機能

就職活動やボランティア活動、ごみの捨て方から住民票の移動までなど学生生活に不可欠な情報を手元に

マイ京都・学びの履歴機能

手帳や日記でスケジュール管理、京都での学生生活を記録しよう！

イベントカレンダー機能

京都ならではのイベントや観光情報をチェック！

お得！機能

学生限定のクーポン配信！
お得！な学生生活を送ろう

マップ機能

学生にとってダメになる
スポットを紹介。乗換案内も！

キャンパス文化パートナーズ制度

KYO-DENTをダウンロードすることで、以下の施設が100円で入場できます。



※他にも優待施設はありますが、施設ごとに特典内容は異なります。※京都市京セラ美術館は、コレクションルームに限りです。

ニュースの閲覧などアプリを利用することで、120種類以上の電子マネーに交換可能なポイント（KYO-GAKUポイント）が貯まっていきます。毎日アプリをチェックしよう！

※本プロモーションは「京都ならではの学び・魅力向上」協議会による提供です。本プロモーションについてのお問い合わせはAmazonではお受けしていません。「京都ならではの学び・魅力向上」協議会事務局（app-admin-ml@consortium.or.jp）までお願いいたします。※Amazon、Amazon.co.jp およびそのロゴはAmazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。※LINEポイントはLINE株式会社が提供するサービスです。※LINE株式会社は、本プロモーションのスポンサーではありません。※LINEおよびLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。

京都の世界遺産が学びのフィールド

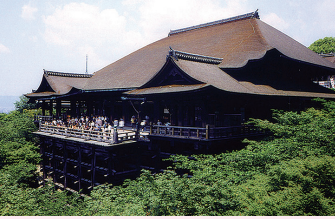
京都世界遺産PBL科目

KYOTO WORLD HERITAGE

大学のまち「京都」、歴史のあるまち「京都」。その京都全体で学生を育て、明日を切り拓く人材を輩出したいという想いから、京都世界遺産PBL科目が誕生しました。京都だからこそできる学びがこのプロジェクトに凝縮されています。他大学学生と連携して世界遺産の課題解決を目指しませんか？



上賀茂神社
×
京都産業大学



清水寺
×
立命館大学



仁和寺
×
京都光華女子大学



二条城
×
同志社大学

京都のミュージアムが学びのフィールド

京都ミュージアムPBL科目

Kyoto's Museums

文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館（ミュージアム）をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育てます。



京都市京セラ美術館
×
太谷大学



京都国際マンガミュージアム
×
京都精華大学



京都市動物園
×
同志社大学



京都鉄道博物館
×
立命館大学

出願期間

2021年3月18日(木)～4月9日(金) 正午

※左記の期間を最長として、この中で
各所属大学により出願期間は異なります。
出願期間は必ず所属大学に確認してください。



京都世界遺産PBL科目 開講科目

A002 京都の世界遺産PBL
～上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する～

上賀茂神社 × 京都産業大学

A003 特殊講義I
「清水寺の△△の○○(良い点)を磨け!、もしくは□□(困っている点)を救え!」

清水寺 × 立命館大学

A004 産官学連携プロジェクト:
仁和寺で学ぶ京都の観光と文化財～京都世界遺産PBL～

仁和寺 × 京都光華女子大学

A005 世界遺産PBL講座～価値主導型に基づく文化遺産マーケティング

二条城 × 同志社大学

A006 特殊講義(教養E)I
「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」

清水寺 × 立命館大学

※科目コードはe京都(いーこと)ラーニングのシラバス検索時にご活用ください。

授業の流れ

環境状況理解

- 講義・インタビュー前調査
- インタビュー



課題探索発見

- 現地調査・フィールドワーク
- 課題解決案の提示
- 課題解決案の検証
- 解決案の改良



発表まとめ

- プレゼンテーション準備
- まとめ
- 成果発表会



※PBL(Project Based Learning)とは、課題発見・解決型の能動的学習のことです

受講生の声

履修科目: ミュージアムPBL科目 動物園の魅力探求と環境教育イベント(2020年度同志社大学提供科目)



仲間たちと一緒に自ら企画を考え、実行することができます!

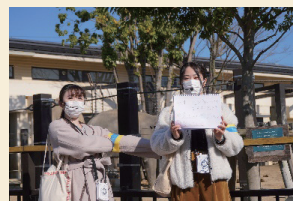
森 雄一 さん (同志社大学 2年生)



この科目の内容は座学のみではなく、フィールドワーク、ヒアリング、ワークショップ、さらにイベント立案までできる授業だということで、楽しそうで自分の成長に繋がると考え、興味を持ちました。知的好奇心を促すイベントを考案する課題でみんなが案を出し合い、コストが低く、学生だけで実行出来る案が採用されました。

私の班では、フリップを用いて動物の知識を披露し、中であえて間違えた内容を混ぜこみ、相方がそこにツッコミを入れて観客に正解を答えてもらう。という形でクイズを作りました。動物園の学術的な一面を発信するために京都市動物園の論文を拝読し、田中先生のフィードバックを頂きながら、観客を惹きつけるためのフリップ制作や親しみやすい話し方を工夫しました。動物園は娯楽だけの場所ではなく、むしろ動物の種の保存や研究、教育のために

娯楽という側面を付け加えたのに過ぎないということを認識しました。また、動物園でのイベント立案において、企画の目標、ターゲット層の設定など基本的なことだけでなく、自ら実行してみることで自分の企画のどこが不足だったかを考え、経験として身につくことが出来ました。一般の授業と違って、仲間たちと一緒に自ら企画を考え、実行することができます。楽しく授業を受けたい、問題解決能力をつけたい、施設の方々と一緒に企画を作ってみたい方はぜひ受講してみてください。



京都ミュージアムPBL科目 開講科目

A007 フィールドワーク特殊演習(PBL)
京都市京セラ美術館をプロデュースする

京都市京セラ美術館 × 大谷大学

A008 コラボレーション概論A
(京都ミュージアム企画デザイン演習)

京都国際マンガミュージアム × 京都精華大学

A009 ミュージアムPBL科目:
感動を伝えるサイエンスコミュニケーション: 動物園をフィールドに

京都市動物園 × 同志社大学

A010 特殊講義(総合)(BA)/
京都鉄道博物館に地元京都からの来館者を増やすにはどうしたらよいか、調査して提案しよう。

京都鉄道博物館 × 立命館大学

担当教員・施設担当者インタビュー 担当科目: ミュージアムPBL科目 動物園の魅力探求と環境教育イベント(2020年度同志社大学提供科目)



担当教員から

服部 篤子 先生 (同志社大学政策学部教授)

Q1:この科目のねらい、魅力は?

企画段階では、動物園に様々な特徴と魅力があると感じていました。例えば、都市部にあり東山岡崎という文化、歴史のある位置にあること、多世代が集う公共の場であること、いのちと向き合う場であり動物園は野生の入り口であると謳っていること、などです。そこで学生は世代をつないで魅力を伝える役割を担えるのではないかと考え、学生が五感をフルに生かして京都市動物園ならではの教育イベントを実施することを目指しました。

Q2:実際に開講してどうでしたか?

ヒアリングやフィールド調査、ワークショップを通じて学生たちが学びを生かすこと、つまり実践をする楽しさと難しさを感じ取ってくれたことが伝わりました。学びと実践の両輪の重要性を改めて感じたところです。京都市動物園の魅力を発見するために他の動物園と比較して感動を写真に収めるなど、フィールド調査を実施したこと、そして動物カメラマンさんから「伝えるとは何か」を考える機会を得たことなどが学びを深めるきっかけとなったように思います。

Q3:今後の授業の取り組み計画、学生の学びや成長への期待についてお聞かせください。

今後も、個人でできる調査とグループワークを組み合わせる学びを行いいます。そして、ヒアリングをすること、イベントを企画すること、いずれもそのために十分に調査し準備する姿勢が必要です。そのうえで学びをどう生かして発信するのかを考え実践します。実際にやってみてこそ発見があり、そこに成長があると期待しています。このプロセスがフィールドワークであり、学ぶ楽しさが味わえることがフィールドワークの魅力だと考えています。



施設担当者から

田中 正之 様 (京都市動物園 生き物・学び・研究センター長)

Q1:授業を受け入れた理由についてお聞かせください。

博物館相当施設として、生涯教育施設として、動物園の教育的機能高めると、相対的に利用数の少ない大学生の利用機会となるのが第一の受け入れ理由です。その上で、大学生の視点から動物園の魅力を発見し、それを同年代に伝えることを課題として進めてくれることを期待したことがもうひとつの理由です。

Q2:実際に授業を受け入れてどうでしたか?

元々動物園のことが好きな学生はもちろんのこと、初めの自己紹介のときに動物園には関心を向けていなかった学生が、授業を進めるうちに動物園の意義やその魅力に気が付いてくれたことが収穫でした。学生たちはみな真面目に取り組んでくれて、最終的な成果報告会

の他にも、動物園で実際にワークショップも実施してくれ、とてもよい印象でした。

Q3:今後、この授業に参加する学生の学びや成長に対する期待についてお聞かせください。

受入施設として名乗りを上げましたが、はたして履修登録をしてくれる大学生がいるのか?ということが心配の種でした。結果的に担当の服部先生の大学から多くの学生が登録してくれましたが、次の課題としては、他の大学からも履修登録者が集まり、より多様な意見が集約されることを期待したいです。

